

■「地域志向科目」の実施 《奈良女子大学》

1. 「地域志向科目」について

「地域志向科目」とは地方創生に寄与する人材を育成するというCOC+事業の目的に沿った人材育成のために必要な学修を実施する科目の総称です。「地域志向科目」は奈良県の実情を知り、奈良県に対する理解と関心を深めるための科目「地方創生理解科目」と自治体や企業と協働しながら地域の課題や問題に対する解決策・改善策の提案を行う「プロジェクト科目」の二つに大別することができます。

2. 「地域志向科目」の実施

事業初年度である平成27年度は地域志向科目の試行時期と考え、既存科目の一部について「地域志向科目」の特徴を組み込み、学生の理解度・参加への熱意等を確認することとしました。

「地域志向科目」の特徴を組み込んだのは、以下の科目です。以下に記す科目では、括弧内に記載する町村への訪問を行いました。

講義名称(訪問先)
地域社会学特殊研究(下市町)
地域居住学(野迫川村)
住環境学基礎実習(野迫川村・十津川村)

3. 「地域志向科目」試行の実例

・地域社会学特殊研究

担当教員 水垣 源太郎(文学部准教授)

参加教員 寺岡 伸悟(文学部教授)、佐藤 克成(生活環境学部講師)

参加学生 14名

スケジュール

第一日目 平成28年1月31日(日) 於:文学系N棟339室

10:00~11:30 第1回 オリエンテーション、地域社会の諸課題

13:00~14:30 第2回 実践的地域調査法

14:40~16:00 第3回 応用例:らくらく農法プロジェクト

第二日目 平成28年2月26日(金) 奈良県下市町巡検(バス移動)

10:00 下市町観光文化センター到着

10:30～11:30 下市町地域支援員による講義
 11:30～12:20 昼食
 12:20～12:30 下市町観光文化センターロビー展示説明
 12:30 下市町観光文化センター出発
 12:45～ 吉野杉箸見学～問屋橋
 13:20～14:50 つるべ鮨弥助・三宝・木工舎市見学
 14:50～15:20 木工舎市出発～小路区～立石区（車中見学）
 15:30～16:15 下市町役場ケーブルテレビ（CATV） らくらく農法映像視聴
 16:15 下市町役場出発 （終了）
 第三日目 平成28年2月28日（日） 奈良県下市町巡検（バス移動）
 11:00 下市町職員同行のもと下市町栃原区直売所見学
 11:45～12:30 昼食
 13:00～14:00 DIY イベント見学（広橋区）
 NPO 法人空き家コンシェルジュ代表による講演
 14:00～14:20 広橋スマイルヴィレッジ
 14:30～14:50 広橋茶屋で休憩 観梅者に甘酒無料ふるまい
 15:00～15:30 広橋梅林育成組合組合長による講演
 16:00～16:30 丹生川上神社
 16:45～17:00 オーカワの美芳野庵 （終了）



展示説明を受ける様子

・地域居住学

担当教員 中山 徹（生活環境学部教授）

参加学生 39名、TA 2名

スケジュール

第一日目 平成 27 年 12 月 19 日（土） 野迫川村訪問（バス移動）

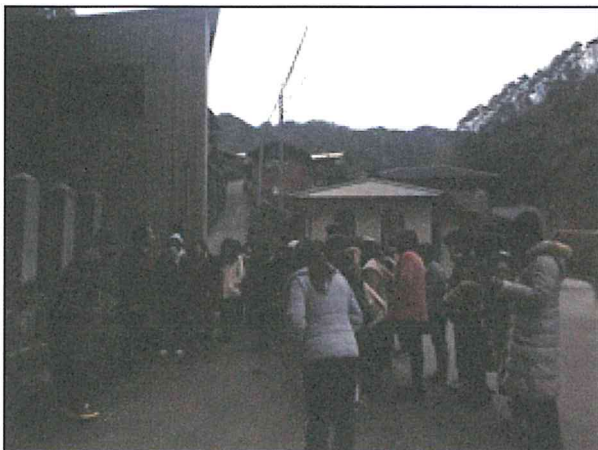
9 : 50 大学出発
11 : 30 青州の里到着・昼食
13 : 00 青州の里出発
14 : 30～15 : 00 北股区長による講演
15 : 00～16 : 00 北股集落見学・大股集落へ移動
16 : 00～17 : 00 大股集落到着・大股区長による現地案内
17 : 15 ホテル着
17 : 30～18 : 00 野迫川村猟友会会長の講演
18 : 00 夕食・以後自由時間

第二日目 平成 27 年 12 月 20 日（日） 野迫川村訪問続き（バス移動）

7 : 30～8 : 30 朝食
9 : 30 ホテル出発
10 : 30～11 : 30 平集落到着・平区長による現地案内
11 : 30～13 : 00 平集落出発・昼食
13 : 00 大学へ向け出発



北股集落見学の様子



大股集落見学の様子

■教育プログラム開発 《奈良女子大学》

1. 平成 28 年度「地域志向科目」の策定

平成 27 年度においては、既存科目の一部について「地域志向科目」の特徴を取り込み、試行的に「地域志向科目」を実施しました。平成 28 年度に実施する「地域志向科目」については、①COC+事業申請時の申請に開講予定を記載している科目、②平成 27 年度に開講された授業科目のうち、「奈良地域」を学ぶ科目として標榜するにふさわしいと考えられる授業科目、③平成 27 年度「地域志向科目」として試行的に授業を展開した科目、を精査し、COC+推進機構教育改革部門において計 28 科目を平成 28 年度「地域志向科目」として策定しました。学生が大学を離れて県内市町村に向かうプロジェクト科目については、予め市町村関係者と意見交換を行い、授業計画・シラバス策定に意見を反映させています。

平成 28 年度「地域志向科目」

区 分	コード	科目名	担当教員
教養教育科目	0136101	パサージュ 1A	内田 忠賢
教養教育科目	0136102	パサージュ 1B	内田 忠賢
教養教育科目	0136111	パサージュ 20A	高田 将志 吉田 容子
教養教育科目	0139500	なら学	寺岡 伸悟 他
教養教育科目	0139930	環太平洋くろしお文化論	小路田泰直 他
キャリア教育科目	0152511	キャリアデザイン・ゼミナール B(11)	高村 仁知
キャリア教育科目	0152517	キャリアデザイン・ゼミナール B(17)	高村 仁知
キャリア教育科目	0152541	キャリアデザイン・ゼミナール B(41)	三木 健寿
キャリア教育科目	0152546	キャリアデザイン・ゼミナール B(46)	横山 茂雄 雲島 知恵 松永 光代
キャリア教育科目	0152552	キャリアデザイン・ゼミナール B(52)	室崎 千重 他
キャリア教育科目	0152553	キャリアデザイン・ゼミナール B(53)	室崎 千重 他
文学部専門教育科目	2001070	なら学概論 B	寺岡 伸悟
文学部専門教育科目	2010180	歴史地理学概論	出田 和久
文学部専門教育科目	2032120	文化人類学特殊研究	武藤 康弘
文学部専門教育科目	2033320	なら学フィールドワーク実習	寺岡 伸悟
文学部専門教育科目	2033570	歴史学実習	西谷地 晴美 他
文学部専門教育科目	2033780	コミュニティ・リサーチ	水垣 源太郎 寺岡 伸悟

文学部専門教育科目	2033790	コミュニティ・アクション	寺岡 伸悟 水垣 源太郎
文学部専門教育科目	2033900	文化メディア学実習 B	内田 忠賢
文学部専門教育科目	2034020	なら学演習	武藤 康弘 寺岡 伸悟
文学部専門教育科目	2034770	地域探究実践演習	高田 将志 吉田 容子
文学部専門教育科目	2034780	地域社会の課題演習	吉田 容子
文学部専門教育科目	2034990	現代民俗論演習	内田 忠賢
理学部専門科目	4504200	森林生物学野外実習	酒井 敦 他
理学部専門科目	4504300	河川生物学野外実習	佐藤 宏明 他
生活環境学部専門科目	5522000	地域居住学	中山 徹
生活環境学部専門科目	5525000	福祉住環境学	室崎 千重

■地域創生マインド養成教育プログラム開発 《奈良工業高等専門学校》

地域に対する友愛・地域創生への使命感を醸成するための「地域創生理解科目」、確かな工学知識による課題探究・解決能力を養う「地域創生演習科目」、国際的・実践的イノベーション能力を育成する「地域創生実践科目」を配置した地域創生マインド養成教育プログラムを編成し、地域で活躍する人材の養成を目指します。今年度は、平成 29 年度の専攻科改組に伴うカリキュラム改訂案を策定しました。さらに、奈良県の文化への理解、地域貢献・創生についての知識の涵養に役立つ「地域創生関連科目」を今後設定し、教育プログラムの充実を図っていきます。

地域創生理解科目としては、「地域と世界の文化論」（専攻科 2 年前期必修）、「地域政策入門」（本科 5 年に導入検討中）を、地域創生演習科目としては、「地域社会技術特論」（専攻科 1 年前期必修）を、地域創生実践科目としては、「地域創生工学研究」（専攻科 1 年通年選択）を配置する予定です。また、本科低学年の地理、歴史、政治経済などにも、奈良県の理解を題材とした課題を設定することとし、平成 28 年度から随時実施します。

地域と世界の文化論では、『奈良の歴史と文化の再発見を通じて、地方創生に関する使命感を滋養する。地域と世界を同時にみつめていくことの重要性、地域と世界を結ぶイノベーションの重要性について理解する』ことを目的に教育を実施します。

地域社会技術特論では、『技術者として社会に貢献するためには、社会のニーズを汲み取り、それを工学的なシーズによって解決する能力が必要である。そのため、特に奈良県における地域の問題を解決することを題材にし、問題解決の演習を行う。その中で、地域社会が抱える問題に対する関心と、技術者の社会貢献の大切さに対する理解を深めることを目的とする。

また、グループで合意形成を行うためのファシリテーション力、発想力、グループによる問題解決能力の育成も図る。』ことを目的に教育を実施します。平成 29 年度の実施を前に、平成 28 年度に現カリキュラムの「社会技術特論」で同内容の授業を実施します。この 2 科目は必修で、専攻科に在籍するすべての学生が地域創生に関わる教育を受けることとなります。

「地域創生工学研究」は、地域共創研究クラスターと連携しながら、地域企業の抱える課題を対象とした研究開発を行う中で、学生の課題解決能力の向上を目指します。

また、教育環境整備として、平成 27 年度は、「地域創生大講義室」「地域創生視聴覚室」を整備し、平成 29 年度には「地域理解資料室」を設置予定です。当資料室内に常時、奈良県内企業に関する紹介資料や奈良県の文化・歴史に関する資料等を展示していくことで、学生の地域創生への意識を日頃の学生生活の中で涵養していく予定です。

■地域創生授業の実施 《奈良工業高等専門学校》

平成 29 年度のカリキュラム改訂を前に平成 27 年度の一部の科目で地域創生授業を実施しました。

① 「社会技術特論」(平成 28 年 1 月 15 日実施)

専攻科 2 年生の授業科目「社会技術特論」において、奈良女子大学文学部の寺岡伸悟教授をお招きして、特別授業を行いました。「社会技術特論」は、専門学科教員による最先端技術についての講義、弁理士による特許についての講義等を 15 回にわたってオムニバス形式で進めて行く授業で、技術者・研究者として社会に貢献するために必要な幅広い視野を養成することを目指しています。今回は、COC+が開始されたことも踏まえ、事業協働機関である奈良女子大の寺岡先生に、「技術者にとっての地域創生」というテーマで講義をいただきました。



② 「地域の課題を解決するアイデアを出そう」（平成 28 年 1 月 29 日実施）

本校機械工学科の福岡寛講師による地域創生のワークショップを実施しました。福岡講師の専門である流体力学と参加学生自身の専門知識を組み合わせ、地域の課題解決のためのアイデアを出そうという演習です。90 分の講義の前半 15 分で簡単な流体力学の説明があり、その後、「奈良県の農業問題を解決しよう」という課題で、さっそくワークショップに入りました。専攻科 2 年の学生は、1 年生の時に『システムデザイン演習』で問題解決のための話し合い技術（ファシリテーション技法）を学んでいますので、開始後、すぐに話し合いが進んでいきました。90 分の短い時間でしたが、各班とも若者の視点と技術者の卵としての視点を合わせたユニークな農業問題解決技術を提案しました。



